

- 問1 16世紀のヨーロッパでは、既存の教会のあり方を批判する動きから宗教改革が起こり、新教とも呼ばれるプロテスタントが誕生しました。この宗教的な対立が、当時のポルトガルやスペインといったカトリック諸国の海外進出にどのような影響を与えたか、最も適切な説明を選びなさい。
。（2021年 愛知県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. プロテスタントの勢力拡大に直面したカトリック側が、失った勢力を回復するために海外での布教活動を強化した。 | 2. プロテスタント諸国が海外進出を独占したため、カトリック諸国は布教よりも国内の防衛を優先させた。 | 3. カトリックとプロテスタントの両勢力が協力体制を築き、イスラム教圏を回避するための新しい航路を開拓した。 | 4. 宗教改革によってキリスト教の権威が失墜したため、ヨーロッパ諸国は布教を目的とした海外進出を完全に停止した。 |
|---|--|--|--|
- 問2 加賀の一向一揆が、同時期に発生した「土一揆」などの他の社会運動と異なり、守護大名を倒して約100年もの長期にわたる自治を維持できた最大の要因として、最も適切なものはどれですか。
。（2026年 高知県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 加賀国においてのみ、鉄砲などの新式兵器を輸入するための自由貿易港が独占的に認められていたから。 | 2. 浄土真宗（一向宗）という宗教的な信仰を通じて、農民や地侍が極めて強固に団結していたから。 | 3. 守護大名が自ら権限を放棄し、農民たちに土地の所有権と徴税権を全面的に譲渡したから。 | 4. 惣村と呼ばれる村の自治組織が、室町幕府の將軍から直接的な軍事的支援を受けていたから。 |
|--|---|--|---|
- 問3 戦国大名の朝倉氏が定めた「城郭の構築に制限を設ける規定」や、伊達氏が定めた「年貢を納めない農民への処罰に関する規定」など、当時の大名が独自に定めた法典が持っていた共通の目的として、最も適切なものはどれか。
。（2024年 奈良県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|
| 1. 室町幕府の將軍から授かった権限を、領民に広く知らしめること | 2. 土地をすべて公有とし、農民に平等に配分して税収を安定させること | 3. 領国内の秩序を安定させ、軍事・経済の両面から支配体制を強化すること | 4. すべての裁判を天皇や公家が行うという原則を確立すること |
|----------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|
- 問4 1549年に鹿児島へ上陸し、日本に初めてキリスト教を伝えたイエズス会の宣教師は誰か。
。（2017年 北海道公立入試 類似）
- | | | | |
|------------|------------|-------------|----------------|
| 1. ヴァリニャーノ | 2. マテオ＝リッチ | 3. ルイス＝フロイス | 4. フランシスコ＝ザビエル |
|------------|------------|-------------|----------------|
- 問5 16世紀の記録において「長さ二、三尺の筒状の道具で、火を放つと雷のような音がする」と描写された武器が、日本の築城技術に与えた影響として正しいものはどれですか。
。（2017年 神奈川県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 鉄砲の射程距離を避けるために、城はすべて人里離れた険しい山頂にのみ築かれるようになった。 | 2. 鉄砲の重さに耐えられるよう、城の主要な構造物がすべて巨大な岩石のみで作られるようになった。 | 3. 鉄砲による火災を防ぐため、城の周囲に広大な水堀を作るのをやめ、空堀が主流となった。 | 4. 鉄砲の威力に対抗するため、高い石垣や厚い壁、複雑な堀を備えた城が築かれるようになった。 |
|---|--|--|--|
- 問6 戦国時代の日本において、全国統一の動きを加速させる要因となった鉄砲について、その伝来の経緯を説明したものとして正しいものはどれか。
。（2016年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------------------------------------|------------------------------------|---|---|
| 1. 日明貿易の進展に伴い、日本の商人が中国から直接買い付けて持ち帰った。 | 2. 種子島に漂着したポルトガル人によって、1543年に伝えられた。 | 3. 元寇の際に、元軍が使用していた「てつほう」を日本側が改良して国産化した。 | 4. キリスト教の布教を目的としたスペイン人の宣教師によって、平戸で初めて紹介された。 |
|---------------------------------------|------------------------------------|---|---|
- 問7 15世紀後半から約11年間にわたって京都を中心に続き、その後の略年表において「下剋上」の風潮が全国に広まるきっかけとして記される戦乱はどれですか。
。（2018年 静岡県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| 1. 観応の擾乱 | 2. 壬申の乱 | 3. 応仁の乱 | 4. 承久の乱 |
|----------|---------|---------|---------|
- 問8 16世紀に起きた「ルターによる宗教改革の開始」「イエズス会の設立」「フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来」という3つの出来事について、時期の早いものから順に正しく並べたものはどれですか。
。（2020年 長野県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. イエズス会の設立 → フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来 → ルターによる宗教改革の開始 | 2. フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来 → ルターによる宗教改革の開始 → イエズス会の設立 | 3. ルターによる宗教改革の開始 → フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来 → イエズス会の設立 | 4. ルターによる宗教改革の開始 → イエズス会の設立 → フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来 |
|---|---|---|---|
- 問9 戦国時代、九州の種子島に伝来した武器をきっかけとして始まった南蛮貿易について、当時の状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。
。（2016年 長野県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. キリスト教の布教は厳しく制限され、貿易の窓口は長崎の出島に限定された。 | 2. 銀や銅を輸出する代わりに、欧米から蒸気機関などの近代技術が導入された。 | 3. キリスト教の布教を伴い、鉄砲や火薬などの軍事物資が輸入された。 | 4. 幕府の許可を得た朱印船により、東南アジア諸国との間で盛んに行われた。 |
|--|--|------------------------------------|---------------------------------------|
- 問10 戦国大名が定めた独自の法律の中には、「喧嘩（けんか）両成敗」のように、家臣同士の私的な争いを厳しく禁じる規定が多く見られます。このような厳しい法を大名が制定した背景として、最も適切な説明はどれですか。
。（2021年 岡山県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|--|
| 1. 天皇から授けられた裁判権を行使して、公家社会の秩序を維持するため | 2. 室町幕府が定めた全国一律の裁判基準を、各地の家臣に徹底させるため | 3. 家臣たちの実力を認め、それぞれの領地での自由な行動を促すため | 4. 家臣同士の私的な紛争を抑え、領国内の団結と大名による統治権を強めるため |
|-------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|--|
- 問11 戦国大名の武田信玄が制定した「甲州法度之次第」のように、当時の有力な大名たちが独自の法律を定めた主な目的として、最も適切なものはどれですか。
。（2024年 千葉県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|---|
| 1. キリスト教の布教を制限し、外国との貿易を大名が独占するため | 2. 室町幕府の命令を全国の農民に守らせ、將軍の権威を強めるため | 3. 朝廷から与えられた官位の順序に従って、家臣の序列を整理するため | 4. 家臣同士の争いを抑え、民衆を含めた領民全体を統制して領国を安定させるため |
|----------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|---|
- 問12 戦国大名が「分国法」を制定した主な目的として、当時の社会情勢を踏まえた説明として最も適切なものはどれか。
。（2017年 茨城県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------------------------------|---|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 朝廷の権威を借りて、隣接する他の領国を経済的に圧迫するため。 | 2. 自らの領国における家臣同士の私的な争いを禁じ、大名による統治を強化するため。 | 3. 鉄砲の伝来に伴い、全国共通の武器使用ルールを室町幕府が定めるため。 | 4. 開墾した土地を永久に私有することを認め、農業生産力を高めるため。 |
|-----------------------------------|---|--------------------------------------|-------------------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 プロテスタントの勢力拡大に直面したカトリック側が、失った勢力を回復するために海外での布教活動を強化した。	16世紀にルターやカルバンらが始めた宗教改革により、ヨーロッパではプロテスタントの勢力が拡大し、カトリック教会は大きな危機に直面しました。これに対抗するため、カトリック教会は内部改革を行うとともに、アジアやアメリカ大陸などの海外において新たな信者を獲得し、勢力を立て直そうとしました。イエズス会の設立やポルトガル・スペインによる積極的な海外進出には、このような宗教的な対抗意識と背景がありました。
問2	答え 2 浄土真宗（一向宗）という宗教的な信仰を通じて、農民や地侍が極めて強固に団結していたから。	加賀の一向一揆の最大の特徴は、浄土真宗の信仰に基づく組織的な団結力にあります。各地の寺院を拠点に、武士だけでなく一般の農民までが教えのもとに結集したことで、従来の守護大名の支配を跳ね返すほどの軍事力と政治力を持つに至りました。この宗教的なネットワークが、単なる不満による一時的な暴動（土一揆）とは異なる、持続的な自治体制を支える基盤となりました。
問3	答え 3 領国内の秩序を安定させ、軍事・経済の両面から支配体制を強化すること	戦国大名は、家臣が勝手に城を築くことを制限して反乱を防止したり、年貢の徴収を徹底して軍事費を確保したりすることで、領国の支配を確実なものにしようとしました。分国法は、戦国時代を勝ち抜くための「富国強兵」を目指した統治の仕組みです。幕府の権威が及ばなくなった時代背景を反映しています。
問4	答え 4 フランシスコ＝ザビエル	スペイン出身でイエズス会の創立会員の一人です。インドのゴアで出会った日本人アンジロウ（ヤジロウ）の案内で来日しました。その後、平戸や山口、豊後（大分）などで布教活動を行いました。ルイス＝フロイスは後に来日し『日本史』を記した人物、ヴァリニャーノは天正遣欧少年使節の派遣を勧めた人物であり、活動時期や内容が異なります。
問5	答え 4 鉄砲の威力に対抗するため、高い石垣や厚い壁、複雑な堀を備えた城が築かれるようになった。	鉄砲の普及は、城のあり方を大きく変えました。それまでの簡素な「山城」から、鉄砲の攻撃に耐えうる強固な石垣や、敵を迎え撃つための窓（狭間）を持つ天守などを備えた「平城」や「平山城」へと進化しました。これにより、城は軍事拠点としてだけでなく、領主の権威を象徴する政治的中心地としての役割も強めることとなりました。
問6	答え 2 種子島に漂着したポルトガル人によって、1543年に伝えられた。	鉄砲は1543年、鹿児島県の種子島に漂着したポルトガル人によって伝えられました。当時の島主であった種子島時堯がこれを買取り、刀鍛冶に命じて国産化を試みたことが、その後の日本国内での普及につながりました。モンゴル襲来時に使用された「てつほう」は火薬を用いた投擲武器であり、火縄銃とは構造が異なります。
問7	答え 3 応仁の乱	8代将軍足利義政の跡継ぎ問題をきっかけに、守護大名の細川氏と山名氏が対立して始まったのが応仁の乱です。この乱によって幕府の権威は失墜し、下の者が実力で上の者を倒す「下剋上」の風潮が強まり、戦国時代へと移行する大きな転換点となりました。
問8	答え 4 ルターによる宗教改革の開始 → イエズス会の設立 → フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来	まず1517年にルターがドイツで宗教改革を始めました。これを受けてカトリック側が勢力回復のために1534年にイエズス会を設立しました。そしてその一員であるフランシスコ・ザビエルが1549年に日本の鹿児島へ到着し、キリスト教を伝えました。この時系列は「宗教改革への対抗手段として海外布教が始まった」という因果関係と結びついています。
問9	答え 3 キリスト教の布教を伴い、鉄砲や火薬などの軍事物資が輸入された。	ポルトガルとの南蛮貿易では、戦国大名たちが武力強化のために鉄砲やその原料となる硝石（火薬の原料）を強く求めました。宣教師たちは貿易の利益を背景に布教活動への協力を求め、多くの戦国大名が貿易の利潤を得るためにキリスト教の布教を許可しました。
問10	答え 4 家臣同士の私的な紛争を抑え、領国内の団結と大名による統治権を強めるため	戦国大名にとって、家臣同士が私的な理由で争うことは、軍事力の低下や領国の混乱につながる大きなリスクでした。そのため、分国法を通じて「争いごとの解決は大名の裁定に従うべきである」という原則を確立させました。これにより、家臣たちを強力に統制し、領国全体を一元となって運営する体制（領国支配）を整えようとしたのです。
問11	答え 4 家臣同士の争いを抑え、民衆を含めた領民全体を統制して領国を安定させるため	戦国大名は、領国内での紛争を解決し、家臣団の結束を固めることで軍事力を維持し、他国との戦いに備える必要がありました。「甲州法度之次第」では、人々の行動を取り締まることで国の統治を目指す姿勢が示されています。これは中央政府である幕府ではなく、各大名が独立して統治を行っていた実態を反映しています。
問12	答え 2 自らの領国における家臣同士の私的な争いを禁じ、大名による統治を強化するため。	戦国大名は、家臣同士の復讐や紛争（自力救済）を禁止し、大名による裁判を受けさせることで領内の秩序を保とうとしました。これにより、軍事力を維持しつつ大名の権力を絶対的なものにする狙いがありました。「喧嘩両成敗」の規定などはその代表例です。他の選択肢にある「全国共通のルール」や「墾田の私有」などは、分国法の性格とは異なります。